

Diagnostic utility of PCR from Paraffin-embedded Sinus Specimens for rhinocerebral mucormycosis complicated by internal carotid artery thrombosis and stroke

Yukiko Maeda, Kunio Toda, Sono Toi, Tetsundo Yano, Mutsumi Iijima, Yuko Shimizu, Yoji Nagashima, Yasutomo Itakura, Shigekazu Iguchi, Ken Kikuchi, Kazutoshi Shibuya, Manabu Nonaka, Kazuo Kitagawa.

ムコール症は珍しいが見逃してはいけない脳梗塞の原因である。診断のゴールドスタンダードは一般的に病理学的検査と髄液の培養検査と言われているが、確定診断するのに難渋すると言われている。今回、我々は鼻脳ムコール症から脳梗塞を発症した一例を経験したため、文献的考察を加え報告した。本症例では髄液や血液、鼻腔ぬぐい液をはじめとした培養検査は陰性だった。脳梗塞発症の約1ヶ月前に行われた、副鼻腔炎に対する手術検体を用い、病理学的所見とホルマリン固定パラフィン包埋された標本の polymerase chain reaction (PCR) 検査から確定診断をし、適切な抗真菌薬による治療を開始した。ムコール症は致死的であると言われており、迅速な診断が必要である。本例のように病理学的所見や培養検査で診断がつかなくとも、ムコール症による脳梗塞を疑った際は副鼻腔の検体の PCR 検査を検討しても良いと考える。

